

祝 辞

愛媛県俳句協会会長 相原 左義長

桜の開花だよりが聞かれる頃と相成りました。第6回「えひめスポーツ俳句大賞」が発表され、その表賞式が行われるに当り心からおよろこびを申し上げます。昨年祝辞で申し上げました国民体育大会から40年遅れて発足いたしました国民文化祭は本年（平成20年）第23回茨城県で実施されます。ちなみに国民体育大会は第63回大分県で「名称」チャレンジ！大分国体であります。

文化祭で俳句大会を実施しなかった県はないのではないのでしょうか、国民文化祭の「文化」とは何だろうかと思える次第であります。

ふり返ってみますに愛媛県の国民文化祭は第5回平成2年で日本の俳句はもとより、外国へ向けて国際俳句大会が実施されたが未だに国際俳句大会を実施した県は他に見当りません。国内はもとより国外に向けての国際俳句大会が意義深いものとなっております。

一方愛媛県の国民体育大会については第72回平成29年実施へ向けすでに強化対策に入っている感じですが、国民文化祭は25年向うのことと、毎年県民総合文化祭にて活性化を計っているのが現状であります。

前置きが少し長くなりましたが「健全なる精神は健全なる身体に宿る」と考えれば「えひめスポーツ俳句大賞」こそが他に誇れる文体両道に通ずる道だと考えられます。当を得た県民こそぞっての活動を称賛したい。

年々投句数が増加することが数の上では発展している如く感じられますが数だけで計れるものではありません。俳句のレベルは確に上ついていると思われれます。ハイブリッドでも、写真と俳句に対しての向上を耳にいたしております。お世話下さった県体育協会、県教育委員会、学校、写真グループ、県俳句協会の皆様方あっての本日の表賞式であります。厚く厚くお礼申し上げ私の祝辞とさせていただきます。